ゐのはな同窓会

鈴木　信夫

同窓会通史―20世紀から21世紀への軌跡

同窓会の活性化は永遠の宿命と言っても過言ではなさそうです。特に，若い会員の参画問題です。そもそも，21世紀初頭において世の仕組みが大きく変わろうとしている時，同窓会という組織体にも存在意義が問われる好機でもありました。

さて，ゐのはな同窓会報の学生編集委員として昭和41年（1960年）より同窓会組織の一端に参画させていただいたことから，多くの諸先生による並々ならぬ組織維持へのご努力を知ることとなりました。その上で，この任意の団体の未曾有の力を感じざるを得ません。源泉力が人の心，人との繋がりにあると透視すれば，その力の貴重さを理解できるかもしれません。従って，21世紀にあたり，あらためて「千葉大学ゐのはな同窓会とは何ぞや？」という問いが，心ある会員の方々より噴出してきました。そのような議論がなされながらも，多くの方々の努力により実行されてきた内容を表のように大略記すこととします。

本会の本部としての活動基盤としては，情報の収集とその広報，および諸種の会務がありますが，必ずしも前者と後者とが一体化してきたとは言えず，各地での会員の活動を把握できてきたとも言えない面がありました。そこで，1998年６月13日，「温故知新」，「持続可能な同窓会」等々のスローガンの下，新たな企画として，同窓会員とゐのはな同窓会報編集部員との懇談の会が，千葉駅ビル・ペリエホールにて開催されました（①，同窓会報第118号に詳述）。定例の会議類とは違うこのような糾合の場は，広報・編集を考える会（同窓会報第141号に詳述），神奈川や東京ゐのはな会などの諸先生方のご尽力による「首都圏ゐのはな会」（⑭）や全国支部会（⑰）というような形でも開催されました。

一方，中央青山監査法人などによる外部組織の協力も得て，ゐのはな同窓会の組織形態についての検討（⑦）や会員の同窓会に対する考えを聞くアンケート調査（⑱）などの作業が行われました。そのような種々の試行錯誤と共に，ゐのはな同窓会会則の改定が，渡辺武会長，佐藤甫夫先生，大藤正雄先生らによる綿密な協議に基づき，原案作りや常任理事会などでの議論を経ながら行われ，組織の近代化がなされてきました（②，⑯）。また，本部事務組織の近代化対策も必要でした。組織活動の充実化に伴う事務職員の配置です。事務長と各々の会務（総務，会計，事業，広報，編集）分担における職員の配置が計られるように，パート職員も含めて努力がなされてきております。但し，医師募集広報などによる寄附収益の増大化の努力も試行されることとなりました。

活性化の一環としての事業拡大（②）や組織化（⑥）の努力では，人材の交流策も計られ（④），また，学生との交流機会の改善がなされました（⑩，⑫，⑯）。同窓会会長の医学部卒業式への参列もそのための１例として開始されました。一方，卒業生会員への様々な支援活動も活発に行われました（⑨，⑬，⑮）。その中では，会員外一般社会人へのアウトリーチ活動も含まれ，千葉大学医学研究院教官のご支援も得て，ゐのはな同窓会の社会におけるステータスの向上化がなされました（⑨）。

母校自体への支援にも力が入れられ，従前よりの施設の整備や備品の購入支援のみならず，20世紀遺産の保存対策に貢献することとされました（③）。また，新しい世紀に向けての企画としては，同窓会が設置ないし支援してきました同窓会館と記念講堂の行く末です。特に，前者について，補修しても老朽化対策が限界であると判断され，後者の改修も視野に入れて，2000年頃より検討がなされることとなりました。例えば，同窓会資産の中に基金が設けられてきたことから，基金設立に労苦をかけていらっしゃった諸先生へ，基金を活用する旨の賛意を得るよう努力がなされてきております（⑧）。その上で，21世紀初頭における新たな同窓会館の設立へと事業化されることとなりました（⑧，⑳）。さらに，器だけでなく，心の絆の刻印もなされることとなりました（㉒）。

記載した活性化と近代化の作業における行く末についてですが，その対策も計られてきました。情報交換手段としてのインターネットの活用です。動画配信が可能なオンライン会報の設置があります（㉑）。さらに，他大学同窓会との交流でした（⑲）。東北大学，東京医科歯科大学，獨協医科大

学，名古屋大学，日本医科大学等々です。但し，やり残されていることも多々あります。例えば，各年代のクラス会を糾合させる評議委員会の充実化です。

では，以上の先に何があるかです。最後の記述として，将来，この拙文をお読みいただく方々への私見を交えてのメッセージです。同窓会とは，あくまでも，任意のものであります。従って，発展や消滅という運命は，会員自身の手に任されている何ともか弱い組織です。しかし，翻ってみると，定められた事しかなし得ない組織に満足がいかない場合，この同窓会を介して，医学・医療の改革・充実化に貢献することも，可能ではないでしょうか？例えば，全国大学同窓会という新たな視点からの日本の医学・医療の革新とその革新の成果の世界への発信です。

同窓会活性化の軌跡（1998～2009）

1998年６月13日	• 同窓会員とゐのはな同窓会編集部員との懇談の会が開催される①
1999年６月26日	• ゐのはな同窓会総会にて，ゐのはな同窓会賞における学内・学外助成の充実化，学生図書助成，会費改訂（３,000円より５,000円へ）などが決定される②
2000年―	• 亥鼻キャンパスに関わる支援が拡大される（辛亥革命記念碑の整備や同窓会館修復など）③
	• ゐのはな同窓会報に医師募集広告などを掲載し人事交流支援作業がなされる④
2001年９月―	• ゐのはな同窓会ホームページhttp://www.inohana.jp/ が開設される⑤
2002年―	• 各地区ゐのはな同窓会への支援費などにより地区ゐのはな同窓会の活性化支援がなされる⑥
	• 将来検討委員会が設定される⑦
	• 同窓会館や記念講堂のあり方と新たな会館設立のための募金活動が検討されるようになる⑧
2003年７月18―31日	• SARSなどの医学危機管理問題に対処する社会人コーディネータ養成講座が開催される⑨
８月６日	• 千葉大学医学部における医学教育・卒後教育を紹介する会が開催される（－2008年）⑩
９月29日	• ゐのはな同窓会意識調査報告が公表される（ゐのはな同窓会報第134号別冊に掲載される）⑪
2004年―	• ゐのはな同窓会学生編集部が復活する（－2009年）⑫
	• 電子カルテ講座が開催される（－2007年）⑬
	•「首都圏ゐのはな会」（フォーラムゐのはな）が開催される⑭
	• 医学文献オンラインアクセスが開設される（－2009年）⑮
	• 千葉大学ゐのはな同窓会会則の改訂が行われ，学生の会員化や総務会の設置などが新たに規定される（詳細はゐのはな同窓会報137号にて記載）⑯
2005年２月12日	• 全国支部会が開催される（－2007年）⑰
2006年―	• 医師偏在化などの医療問題に関わるアンケート調査などが行われる⑱
2007年―	• 他大学同窓会との交流が開始される⑲
	• 新ゐのはな同窓会館設立（千葉大学医学部創立135周年記念）事業が組織的に検討されることとなる（詳細はゐのはな同窓会報146号にて記載）⑳
2008年―	• オンライン会報が開設される㉑
2009年―	• 千葉医学の伝統言語化作業がなされる㉒

注：丸数字は本文中引用箇所を示す。

（すずき　のぶお）